

1 経営理念(ミッション・ビジョン)		2 めざす子供像	
I 教育に係るマネジメント (1)人を育てる人が育つ学校 <教師> (2)子供の姿で教育を語る学校 <子供> (3)シンプル イズ ベストが定着した学校 <高い質>		柔軟に考える かしい子 挑戦する たくましい子 集中する さわやかな子	
II 組織に係るマネジメント (1)子供も教師も自らの伸びを自己評価しながら、学びを楽しむ学校 (2)ミドルアップダウン、DCAPサイクルによる組織運営		『リーダーになろう ～夢・挑戦・感動～』	

経営目標・評価項目・評価・達成状況												
	評価計画					自己評価						
	中期経営目標	短期経営目標	重点	目標達成のための手だて	評価指標		時期	達成値	短期経営目標の達成状況	評価	改善方策	
					評価項目	目標数値						
確かな学力	基礎・基本の学力を定着させ、活用力を伸ばし、思考力・判断力・表現力を育てる	神石小版「学びの変革アクションプラン」に基づき、児童が主体的に学ぶ課題発見・解決学習による協働的な学習をすすめることにより、児童の学力向上を図る	1	総合的な学習の時間に係る学校教育研究を基に、すべての教科において課題発見・解決学習を展開し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	1 各学年の学期末、学年末テストが全国平均を上回る。	1 国語科85％・算数科80％	中間	1 国語58％ 算数65％	1 各学年の1学期末テストが目標点数を上回っている児童数を調査した結果は以下の通りである。 ＜国語＞ ・4年(91％)・6年(100％) ＜算数＞ ・1年(88％) 国語においては、問題に合った正しい解答の仕方に課題があった。 算数では、筋道を立てて考える力に課題があった。		1 国語では、解答欄の形式に合わせて解答させる。漢字の成り立ちを押さえて、正しく書くようにさせる。算数では、筋道を立てて考えることができるように、考え方の流れを明確にして式の意味をノートに書かせて、説明させる。 2 国語では、登場人物の気持ちを考えるときに、文章中のどの表現からその気持ちを想像したのか理由をはっきりさせて考えさせる。算数では、式を立てるときに「まず」「次に」という言葉を使って式の意味をノートに書き、筋道立てて説明できるようにさせる。 3 手紙の書き方や生活の中で平均や割合を使ってみるなど、身の回りのことと学習した内容を関連させて考えられるように、学習内容を工夫する。算数においては、問題把握の場面で「分かっていること」「求めること」をはっきりさせ、どのように求めればよいが見通しをもたせて、課題解決に取り組ませる。式の説明は、「まず」「次に」という言葉を使って式の意味をノートに書き、筋道立てて説明できるようにさせる。	
					2 基礎・基本定着状況調査の結果が県平均を上回る。	2・3 本校平均÷全国(県)平均が105％		2 105％				2 基礎基本定着状況調査について 国語 本校73.1％ 県平均68.0％ 本校÷県＝107％ 算数 本校76.6％ 県平均74.3％ 本校÷県＝103％ ともに県平均を上回っている。国語においては登場人物の気持ちを文章表現から根拠を明らかにして考える問題に課題があった。算数では、必要な言葉や数字を使って、式の意味を記述で説明する問題に課題があった。
					3 全国学力・学習状況調査の結果が全国平均を上回る。			3 97％				3 全国学力学習状況調査について 国語A本校72 全国74.8 国語B本校67 全国57.5 本校÷全国平均＝104％ 国語は全国平均比105％の目標値に近い結果であった。手紙の後付けの書き方、決められた条件の中で考えをまとめて書くことが課題 算数A本校75 全国78.6 算数B本校38 全国45.9 本校÷全国平均＝90％ 算数は、基礎的な計算などはできていたが、式の説明や与えられた情報から割合の関係を捉え説明する問題に課題があった。
					4 標準学力調査の結果が全国平均を上回る。	1 国語科85％・算数科80％ 2・3・4 本校平均÷全国(県)平均が105％	年度末					
豊かな心	他者と共によりよく生きようとする豊かな心を育てる	心を育て、豊かな生き方の基盤となる読書活動を推進する	2	神石小読書百選の活用により、学年に応じた読書目標を達成する。	低学年は毎月20冊以上、中学年は毎月500ページ以上、高学年は毎月800ページ以上、本を読む。	中間 85％	中間	71％	9月末までに、ひと月ごとの読書目標を集計したところ、平均で71％の児童が目標の冊数またはページ数を達成していたが、目標値に届くことができなかった。達成できていない児童が固定化されていること、達成した月はあるが、月によっては達成していない時がある児童が見られることが今後の課題である。		読書が習慣化していない児童が多いので、学年に応じて月に決められた回数以上図書室に行き本を借りるなど、図書室へ足を運ばせるような取り組みや継続的な声かけが必要である。	
						年度末95％						年度末
健やかな体	目標を持って進んで体をきたえ、やりぬく気力と体力を育てる	児童が自ら体力を高め、健康な生活を創り出す力を育てる	3	1 走力・持久力を向上させるために、マラソンタイムで持久走、縄跳びを継続し、体力向上を図る。 2 健康の維持向上を図るため、「生活チャレンジ」に取り組む。	1 新体力テストの「シャトルラン」で、県平均を90％以上の児童が上回る。	1・2 80％	中間	1 73％	1 1学期新体力テスト結果は、73％だった。学年によって、体力差があることが明らかになった。全校での取り組みも今後も続けていかなければならないが、学年単位で体力的に弱いところを分析して、体育などで取り組んでいくことが必要である。 2 毎月「生活チャレンジ」の振り返り調査を実施し、62.6％の児童がパーフェクトを達成した。よって、中間では達成目標を下回る結果となった。		1 業間体育での全校マラソン・なわとびを続けていくとともに、新たに「鬼ごっこタイム」等を設け、体力向上に努める。また、各学年の体育の時間の始めにも、20mダッシュなどの体作り運動に取り組み、体力の向上に努める。 2 毎月の集計結果「ほけんだより」をもとに、全校朝会で児童に伝えたり、体重測定の時間を利用して学級指導をしたりして、児童の意欲喚起を図る。	
					2 「生活チャレンジ」について、毎月振り返り調査を実施し90％以上の児童がパーフェクトを達成する。	1・2 90％		年度末				
信頼される学校	児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校を創る	安心して伸び伸びと力が発揮できる、行きたい・行かせたい学校を創る	4	1 児童一人一人が大切にされる学校を作る。 2 保護者や地域住民の学校教育への満足度を高める。	1 学期末に行う児童アンケートの3項目「いやなことを言われたり、からかわれたりしない」「ひとりぼっちではない」「気持ちをわかってくれる人がいる」に対して、90％以上の児童が肯定的に評価する。	1 85％ 2 90％	中間	1 80.2％ 2 97.6％	1 アンケートを行った結果、全体としては目標値を少し下回った。アンケートの項目別に見ると、「ひとりぼっちではない」は90.5％、「気持ちがわかってくれる人がいる」は95.2％と目標値を超えているが、「いやなことを言われたり、からかわれたりしない」の項目は57.1％と大きく下回っていた。アンケート後、面談を行った結果、「いやなことを言われたり、からかわれたりしない」の項目に対して否定的な評価をしていた児童のほとんどが友達との突発的なけんかが原因であった。継続しているということはほとんどなかったが、児童の中で解決しきれていないことがあると考えられる。 2 アンケート調査において、概ね肯定的な評価が多かった。そのため、目標値を超えることができた。		1 全校朝会や一斉下校など、児童全員が集まる場で全体指導を行う。そのとき、実際に起こっているけんかや言い合いを具体例として考えさせることで、自分自身はどうか考えさせる。また、反対に児童会を中心に行っている「いい言葉見つけ」を紹介し、その言葉を増やしていくように指導する。アンケートを実施する際には、「いやなことを言われたり、からかわれたりしない」の項目については、継続してされている、または頻繁にされているかどうかを考えて記入するように伝えるようにする。児童の話をしっかり傾聴し、誰もが納得できるように指導する。 2 児童が普段の授業や学校生活が充実していると話す内容も前向きな発言が多くなり、保護者も安心することができると考える。1日の中で、児童にしっかりと達成感を味わわせ、伸び伸びと力を発揮させられるように、毎日の授業や児童へのコミュニケーションを大切に指導する。	
					2 運動会、公開研究会、学習発表会において、保護者・地域アンケートを実施し、95％以上の児童が肯定的に評価する。	1 90％ 2 95％						年度末